

ネイティブ バチルス・サーモプロテオリティクス サーモリシン

Cat. No. NATE-0705

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 サーモリシンは、グラム陽性菌バチルス・サーモプロテオリティクスによって生成される熱安定性の中性メタロプロテイナーゼ酵素です。この酵素は、酵素活性に1つの亜鉛イオンと構造的安定性に4つのカルシウムイオンを必要とします。サーモリシンは、疎水性アミノ酸を含むペプチド結合の加水分解を特異的に触媒します。しかし、サーモリシンは加水分解の逆反応を通じてペプチド結合の形成にも広く使用されています。サーモリシンは、さまざまなバチルス種によって生成されるメタロプロテイナーゼのファミリーの中で最も安定したメンバーです。これらの酵素は「中性」プロテイナーゼまたはサーモリシン型プロテイナーゼ (TLPs) と呼ばれます。

別名 サーモリシン; バチルス・サーモプロテオリティクス中性プロテナーゼ; サーモアーゼ; サーモアーゼ Y10; TLN; EC 3.4.24.27

製品情報

由来	バチルス・サーモプロテオリティクス
形態	凍結乾燥された
EC番号	EC 3.4.24.27
CAS登録番号	9073-78-3
分子量	36.2kDa
活性	逆相HPLC分析では、75°Cでサーモリシンとインスリンの比率1:20で10分間インキュベーションした後、未消化のインスリンが<30%であることが示されています。
pH安定性	5.0-8.5
最適pH	8
活性化因子	カルシウムと亜鉛は補因子として働きます。

使用法とパッケージング

調製方法 1. サーモリシンをサーモリシン消化バッファー (50mM Tris [pH 8.0], 0.5mM CaCl₂) に再懸濁します。酵素はサーモリシン消化バッファー中で最大1mg/mlまで可溶です。再構成したサーモリシンは-20°Cで最大2週間保存します。 2. 最適な消化温度範囲は65-85°Cです。